

浄化センターをリモート見学

姫路市の小学生、下水処理学ぶ

県まちづくり技術センター

県まちづくり技術センターはこのほど、揖保川浄化センター（姫路市）の役割を紹介するリモート見学の教材コンテンツを製作した。そのお披露目を兼ねたオンライン見学会が6日に行われ、姫路市立谷内小4年の教室と浄化センターをネットをつないで下水を処理する仕組みを学んだ。県が管理する流域下水道施設では初めての試みとなる。

オンライン教材を製作

揖保川浄化センターでは、コロナ禍で2年前から社会見学の受け入れを中止。失われた機会を取り戻そうと、揖



保川流域下水道管理事務所の小池敏之所長がリモート教材の製作を企画した。地元の映像エンジニアやツア―会社代表らの協力を得て、7月下旬から製作を開始。ドローンの空撮、職員

のメッセージ、水質検査などの映像を織り交ぜ、汚水がきれいになる過程を追った約30分間の動画をほぼ1カ月で完成させた。

見学会では教材映像を使いながら、通常は見学できない砂やごみを取り除く地下18メートルにある沈砂池、微生物の力で汚れを除去する反応タンク、絶

えず職員が常駐している中央監視室などの役割をクイズを交えて説明した。

現地中継で治田賢詞センター長は、学校の25リットル約220杯分の汚水を一日で処理すると解説。「油などを流すと下水管が詰まることもある。水をきれいにする人がいることを思いだし

て、あまり汚い水を流さないようにして」と求めた。

小池所長は、「西播エリアを中心に今後学校の申し入れに応じてオンライン見学会を実施し、正しい下水道の使い方伝えていきたい」と話している。

兵庫ジャーナル1915号
9月19日掲載

教室と揖保川浄化センターをオンラインでつないだ見学会を実施した